



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



尾巳園初編

上

八遠13
842
1



速 13
號 2
卷 1

梅曆 春色辰巳園方

餘興 黃帝之麻呂本家本元也。是より

義氏和氏二人の番頭命以受る

曆を改む帝命是子の心之難賣取

次領多く那。既り。本朝不出見世出

より。貞親の如。大連貞野麻呂又天保年

明治三六年
十月十八日
購求

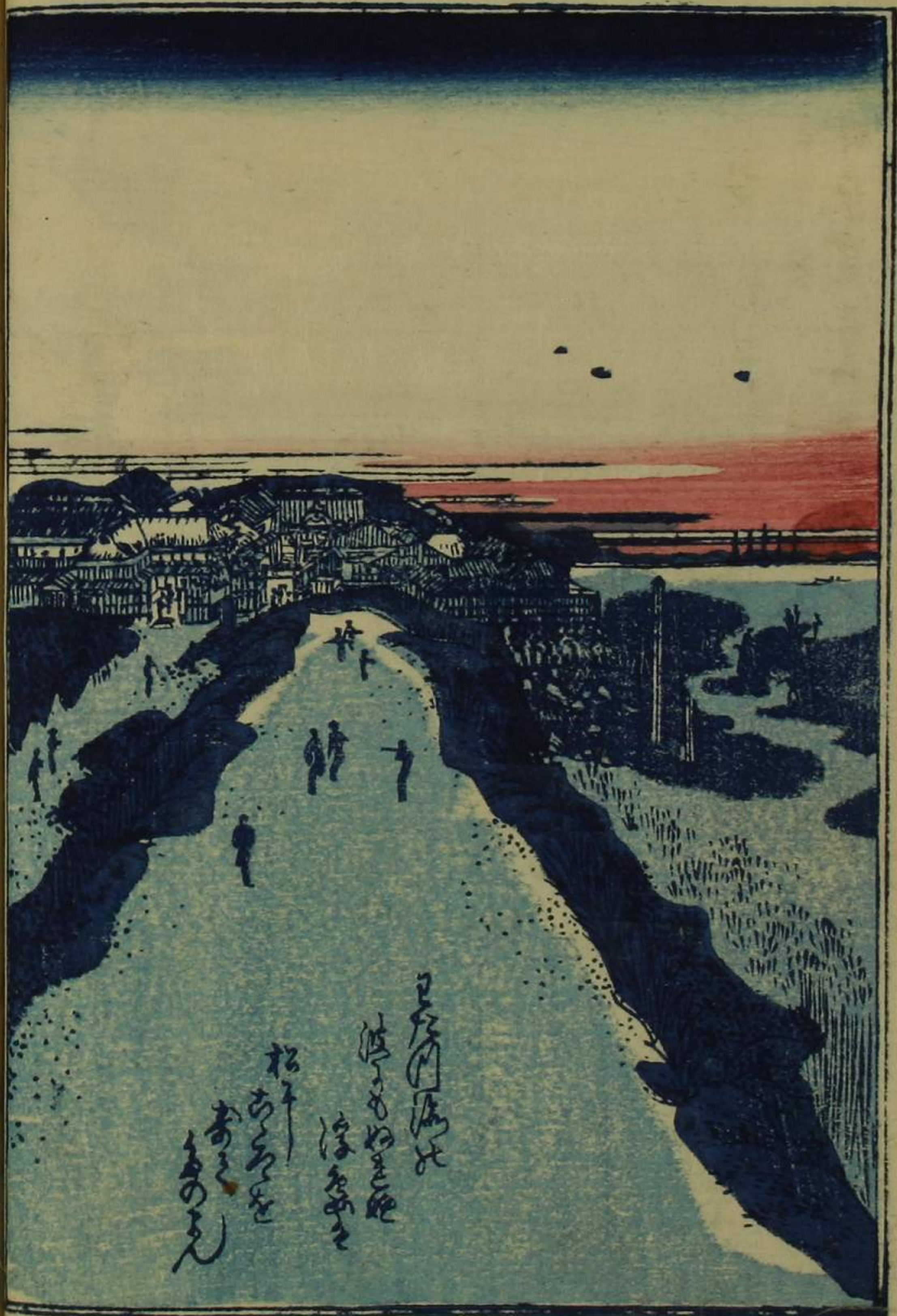
中日曆博士賀茂保憲（かもの けいのり）の撰（せん）る國金達度（くにのきんたつど）
 傳（つた）へし麻呂（まろ）の久（ひさ）し。あま狂訓（まがらふし）高（たか）し
 主人（しゅじん）先（ま）手（て）梅（うめ）麻呂（まろ）の自（みづか）ひよふ或（ある）世（よ）に記（し）るあり成（なり）
 事（こと）官（くわん）編（へん）に〜筆（ふで）を止（とど）め彼（か）を天地陰陽（てんちゐんやう）変（か）
 易（えき）交易（かうぎ）順（じゆん）逆（ぎやく）相（あ）対（たい）吉（きち）凶（きう）得失（とくしつ）の大（だい）仕（し）掛（か）り
 一（ひと）く。天下（てんか）に重（おも）宝（たから）又（また）是（こゝろ）に（は）な（ら）ぶ（は）物（もの）れ。是（こゝろ）を

男女（だんなぢよ）の嬉（うれ）樂（しやく）を誠（まこと）に（し）ら（し）し（て）勅（しやく）善（ぜん）惡（あく）
 惡（あく）此（こゝろ）世（よ）始（は）狂（きやう）言（ごん）〜。禮（れい）也（や）。夢（ゆめ）の見（み）物（ぶつ）是（こゝろ）を（あ）る（べ）
 也（や）。今（いま）一（ひと）花（はな）咲（さ）き（ん）と。世（よ）に持（も）た（し）餘（あま）無（な）成（なり）
 現（いま）を（あ）ら（し）。今（いま）一（ひと）花（はな）咲（さ）き（ん）と。世（よ）に持（も）た（し）餘（あま）無（な）成（なり）
 雷（かみなり）の交（ま）切（き）た（れ）勢（せい）。あ（ら）う捨（す）て（し）る（は）あ（ら）う（あ）る（は）あ（ら）う（あ）る（は）
 自（みづか）ひの深（ふか）き川（がは）の世（よ）界（かい）題（だい）而（して）其（その）色（いろ）辰（たつ）巳（み）園（いん）と云（い）ふ



あゝ環渡舟
 人ちさかたた歌何鳥
 野の屋
 何々々々々
 金龍山人





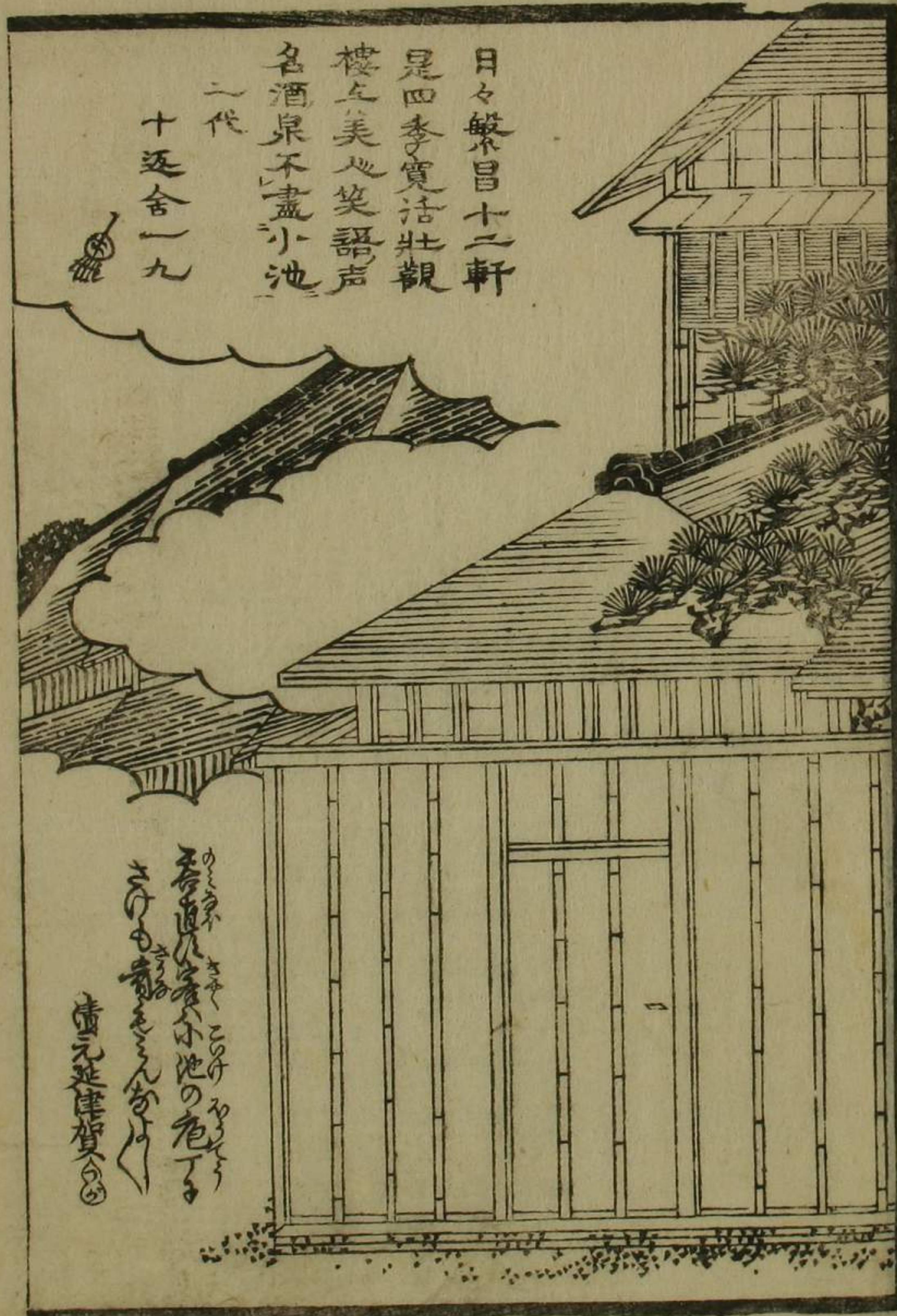
日下町
 江戸の町
 浮き世
 松平
 あらゆる
 ありと
 まるごと

梅曆 あめんをく 春色辰巳園卷之一
 餘興 あまのり

江戸 狂訓亭主人著

第一回

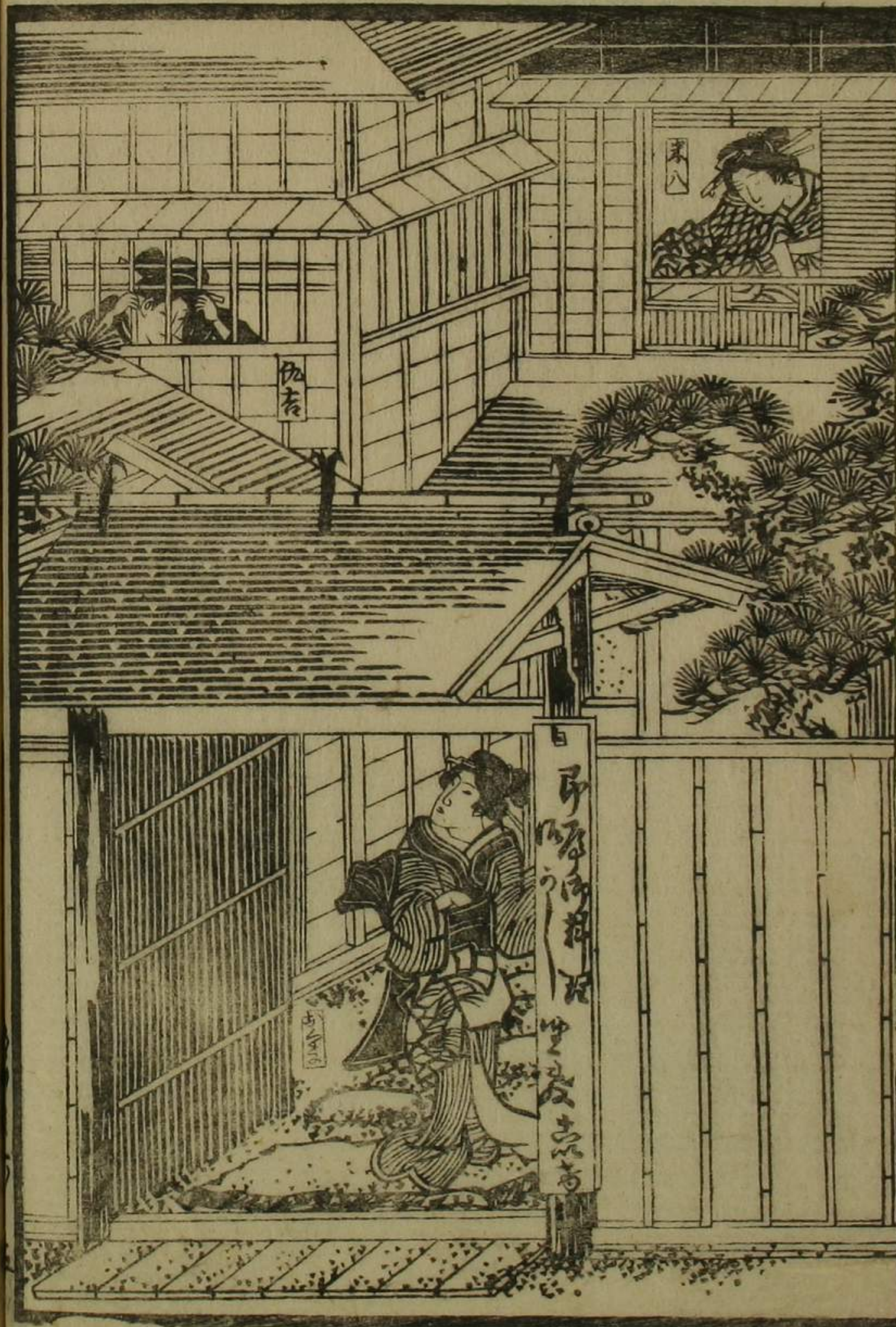
春の景も梅に三つらの小は茶掬あゆめりと
 日下町に我はの夢とかを形はひのくは尺八もきえ
 ながぐちの橋八がト うらなりの橋よりへてうらなりの橋よりへてうらなりの橋よりへて その十
 二軒の會席に小池と鳴き下持世幸ぞ丸めくうら
 きあ中に実意成見世のかりさ直る柱も杉皮附つろふ



日々繁昌十二軒
 是四季實活壯觀
 樓上美心笑語声
 名酒泉不盡小池

二代
 十返舎一九

この池は、さき、このやうな
 名酒は、さき、このやうな
 さきの、さきの、さきの、さきの
 清元延津賀の



東八

九吉

日
 月
 星
 雲
 霧
 雪
 霜
 露
 雨
 風
 雷
 電
 虹
 霞
 霧
 雲
 霧
 雪
 霜
 露
 雨
 風
 雷
 電
 虹
 霞

秘結わくせうき一昆沙門天の御変うく冥
致わくせうあるとかなとまき婦多川一回ふき伝せ
るよう一信くかふりり影る影

仇まじりらに毒の毒みトわくまじり白はよく仇者ガ偏
のきぐんで突かる言をいせまき米八も何とせまい
の仇その仇者ガ男成入る怒もあはる紅楓葉の青かり
より男深辛苦万苦のその中に見能男とねまき
と男入る人をもまきやもるる女女の情も一涙乃

せつらるる江人成は情むぞせりなけむ

第二回

仇と男入るも今まきふくまきとせう我をたかきん
こまき仇ある男あどの情もあはる世にせむぐお捨もや
女成相とあはる女あはる女よまきおる女一そまき相と
あはる米八が老さなちくとまきる眼張本こつのおび
見移まき顔あまきく筋はぐ一まきまき打後ま
女ゆえうとこまきまきまきまきまきまきまきまき

つらいつらいつらいつらの仇さん堪忍しつらんよる経
ふとぐら 婦多川のあのもろい娘はなまに捨割ちりていん
どのうとよこのうとひ落つてさうらうに居る仇者ら
ごうさうさうに仇ごうもよくさうさうさうさう他さび
すんでおゝあゝのまんぢうあゝおがなふんびんの目を
はせあゝヨウコサ 一モウもあゝも金徳のけいけい一のう
つらあゝねあゝあゝのやうに強情るう 龍吉とつ巻やう
うううううう何とひもなヨト けいけいささけい 仇

まら 女おにギツリとあひまらるるう ころ彼中 衆
まら 八と出合うーらのまらお丹は弟が方へ落し
ころ并 のて強きうつきーがまのけいけいと考るるに
まら 彼古に身ぶらうと云授うね事もある まら
丹は弟と私とあゝあゝあゝと意気サとらうとらうとらうと
日あいつらふ世はよるのうとわる思をうりまらあゝう
まらあゝあゝと意角丹は弟にやまゝのよるさうあゝ
まらあゝと云候のうとらう まら丹は弟あゝあゝあゝ

おせつなすりふつり
せんさうは居候〜子正
〜のしきも入さんぐア
おのづかさんあんなき
どう〜入あはうと
あふ二人あ〜
お入さん〜
〜のしきも入さんぐ
お入さん〜

お入さん〜
〜のしきも入さんぐ
お入さん〜
〜のしきも入さんぐ
お入さん〜
〜のしきも入さんぐ
お入さん〜
〜のしきも入さんぐ
お入さん〜
〜のしきも入さんぐ
お入さん〜

縁の縁とくへさしきやうとなるはのふかくはくく月と日のまにあがひ
 男女ともも赤うらなうら後の色あるはのすんんあらは
 かりしきても今の人の身のとららいとを支た方があひ
 年くまつ信りとあるは縁と親兄
 弟も當人もあはは真會海もたんせらるまくまり
 夫もあらるはひのあら他人の旁（ゆ）ともあらるは
 年のむらおのあらるは縁と親兄
 年のむらおのあらるは縁と親兄
 年のむらおのあらるは縁と親兄
 年のむらおのあらるは縁と親兄
 年のむらおのあらるは縁と親兄

幸もあらるは風の柳のあらるは縁と親兄
 幸もあらるは風の柳のあらるは縁と親兄
 幸もあらるは風の柳のあらるは縁と親兄
 幸もあらるは風の柳のあらるは縁と親兄
 幸もあらるは風の柳のあらるは縁と親兄

縁の縁とくへさしきやうとなるはのふかくはくく月と日のまにあがひ
 縁の縁へさしきやうとなるはのふかくはくく月と日のまにあがひ
 縁の縁へさしきやうとなるはのふかくはくく月と日のまにあがひ
 縁の縁へさしきやうとなるはのふかくはくく月と日のまにあがひ
 縁の縁へさしきやうとなるはのふかくはくく月と日のまにあがひ

